



徳島市民病院だより

徳島市民病院の理念
「思いやり・信頼・安心」

〒770-0812 徳島市北常三島町 2 丁目 34 番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

令和7年10月

44号

MRI-超音波融合画像ガイド下前立腺針生検を開始

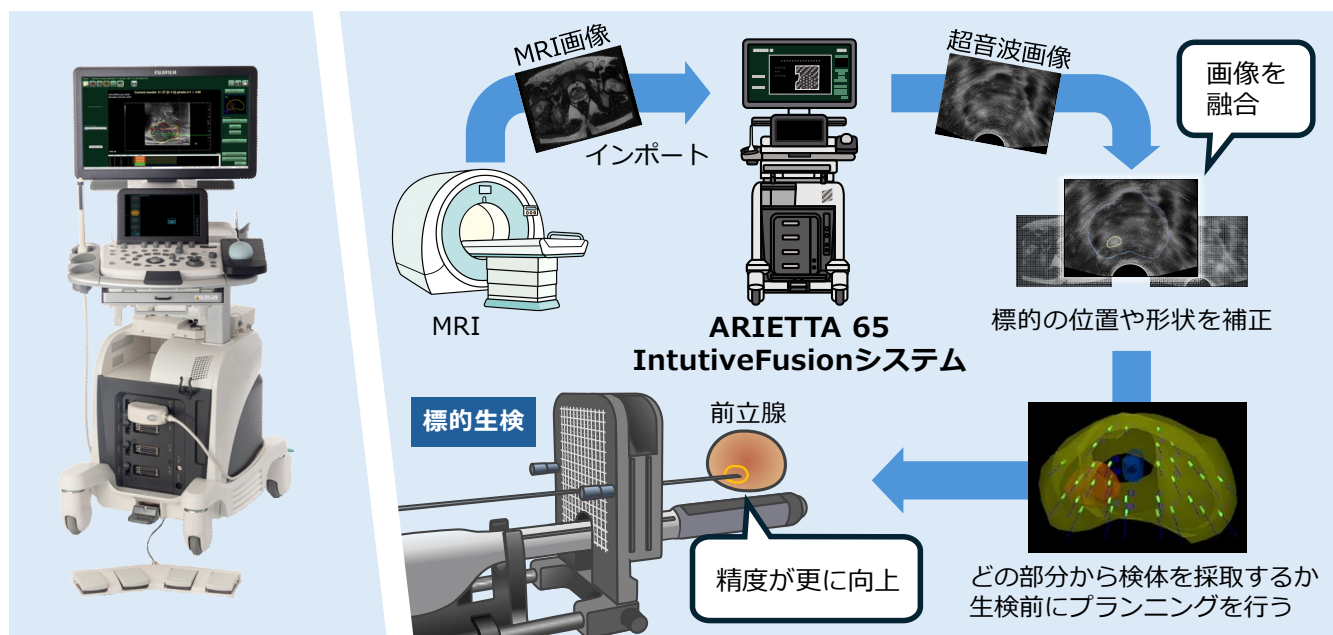
当院では令和7年8月より、ARIETTA 65 Intuitive Fusionシステムを用いたMRI画像と超音波検査融合画像による前立腺針生検法を開始しました。MRI画像で前立腺がんが疑われる場合、事前に撮影したMRI画像と生検時の超音波検査画像をリアルタイムに融合させ、がんが疑われる部位を可視化させて狙いを定め生検を行う標的生検（ターゲット生検）が可能になりました。MRIで前立腺がんが疑われた部位の組織を正確に採取し、診断精度を高めるメリットがあります。

当院では、限局性前立腺がんの標準治療である、ロボット支援手術（da Vinci導入）、小線源療法、外照射治療のすべての治療モダリティを導入しており、年々、前立腺がんの治療件数は増加しています。また昨年は年間100件以上の前立腺生検を施行しており、MRI-超音波融合画像ガイド下前立腺針生検を

導入することで、より精度の高い診断および治療が可能になりました。今後も患者さんおよびご家族の意思を尊重し、患者さんの背景やニーズにあった最適な前立腺がん治療を提供させていただきます。

■ 生検の実際

- ・基本的に腰椎麻酔で行います（抗凝固剤の中止が困難な場合は全身麻酔で行うことがあります）。
- ・腰椎麻酔の場合1泊2日、全身麻酔の場合は2泊3日で行います。
- ・標的生検（がんが疑われる部位）は1か所につき2～4本採取します。
- ・MRI画像で異常を認めない部位も、系統的生検として12か所採取します。
- ・合併症として、出血（血尿）、感染、排尿困難などがありますが、従来の前立腺生検法と比較して差はありません。（副院長 福森 知治）



ARIETTA 65 Intuitive Fusionシステムを用いた前立腺針生検法

地域医療支援と連携強化のために

地域医療支援病院は、第一線の地域医療を担うかかりつけ医を支援し、精密な検査及び入院・手術などの急性期医療を提供する医療機関のことです。当院は平成20年に徳島県知事より承認を受け、地域完結型医療の実現を目指して以下のような取り組みを行っています。

- 連携医療機関への訪問・情報共有
- 共同診療の推進、連携パス運用など
- 地域医療関係者の要望把握、改善

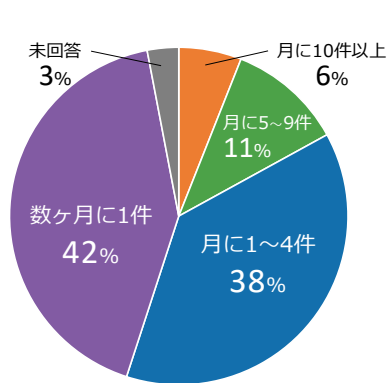
取り組みの一環である連携医療機関対象のアンケート

調査については、今年度の配布数は718枚、回答数は220枚、回収率30.6%でした（令和7年7月集計）。調査結果は以下のグラフに示すとおりです。

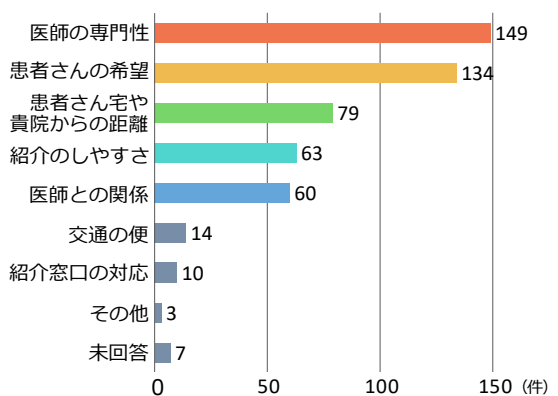
日々いただくご意見やアンケート結果を真摯に受け止め、引き続き業務改善や支援体制の充実を図ってまいります。紹介患者さんへの医療提供、緊急受診を要する方の受け入れ等、現在以上の連携強化に取り組んでまいりますので、今後とも徳島市民病院をどうぞ宜しくお願いいたします。（患者支援センター 森田 敏文）

地域医療機関対象のアンケート調査結果（一部抜粋）

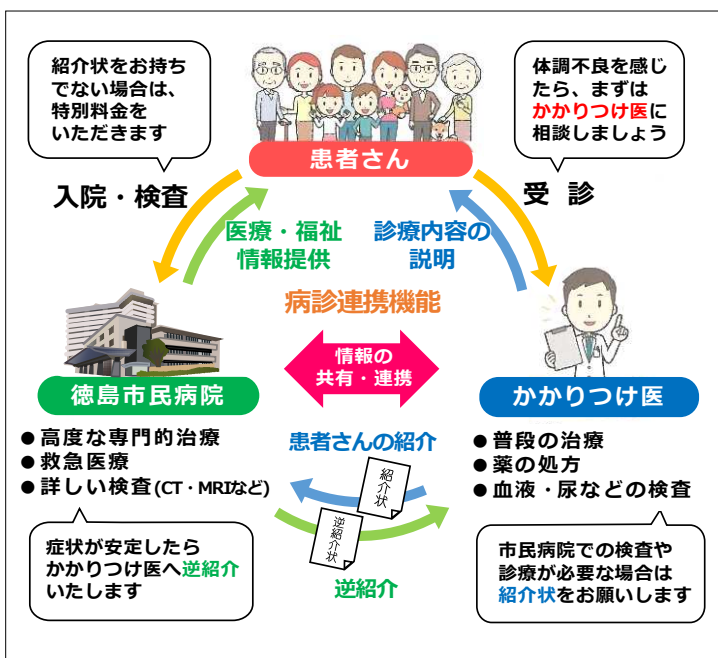
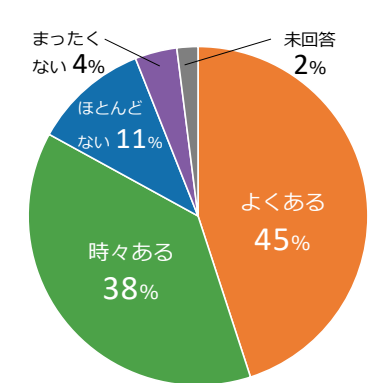
● 当院への患者さん紹介数は？



● 紹介の理由について（複数回答）

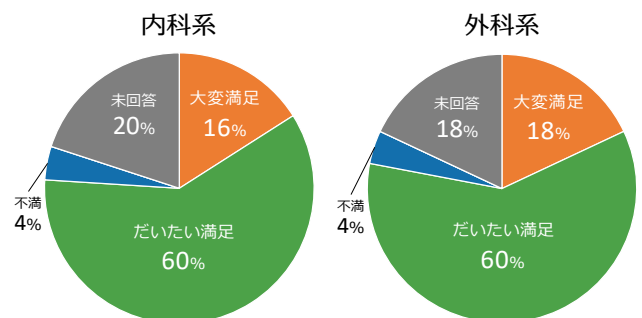


● 紹介患者さんの逆紹介は？

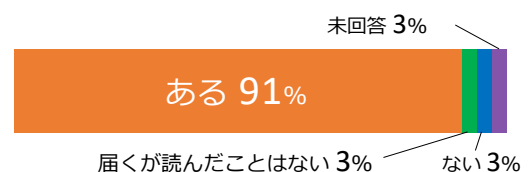


かかりつけ医療機関と当院が連携し、患者さんへ切れ目のない医療を提供

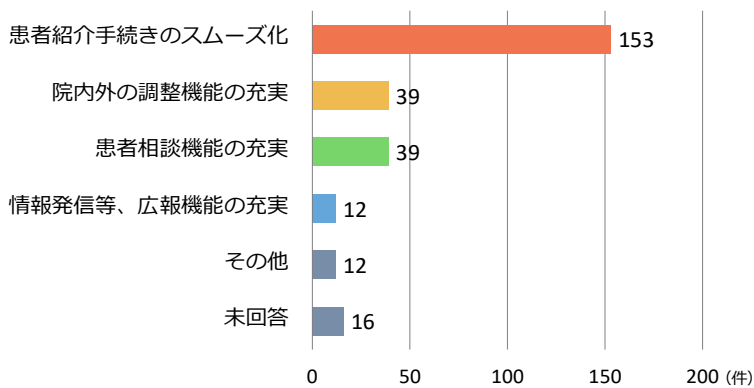
● 救急患者さんの受け入れについて



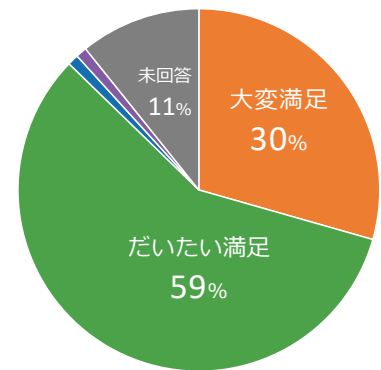
● 徳島市民病院だよりを読んだことは？



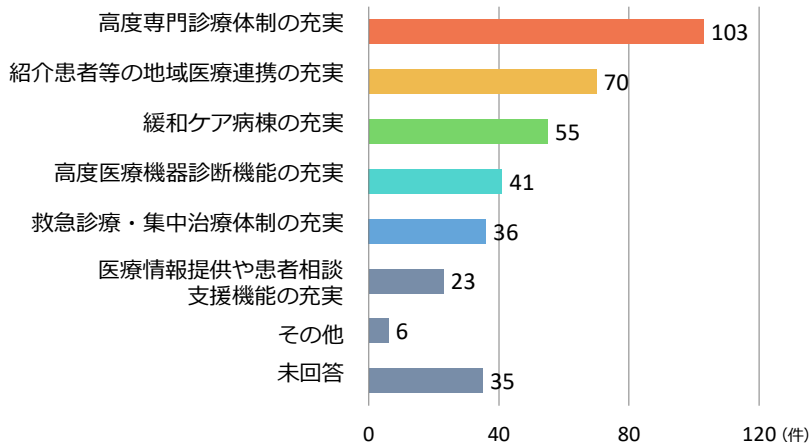
● 患者支援センターに期待することは？（複数回答）



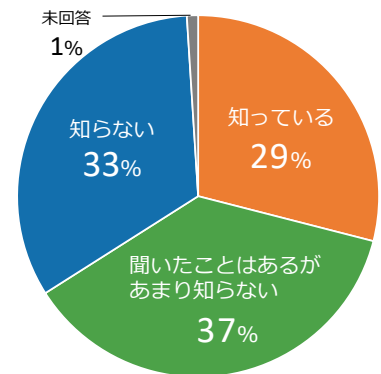
● 患者支援センターの対応について



● がんセンターに期待することは？（複数回答）



● 「あんしんカード」※をご存じですか？



※ 当院にてがん患者さんに発行しているカード

◆ 研修医日記 ◆

臨床研修医の皆さんに、医師を目指すきっかけや印象深い経験、これからの目標についてなど自由に語っていただくリレー企画です。

初期臨床研修医1年目の村上 由佳と申します。生まれも育ちも徳島で、徳島に残って勤務したいと考えておりましたので、徳島市民病院で働くことができ、非常に嬉しく思っています。

私は県西部の脇町高校卒業後、徳島大学医科栄養学科に進学し、患者さんの食事や必要な栄養素について4年間学びました。その中で栄養学に留まらず、患者さんの健康やより良い暮らしのため、更に自分にできることはないかと考えるようになり、卒業後、徳島大学医学科への進学を決意しました。栄養学科で4年、医学科で6年、合計10年間も徳島大学におりまして、長い長い大学生活となりました。人生何が起きるか分かりませんね。周りのたくさんの方の支えのおかげで、目標に向かって最後まで諦めず進むことができ、今があることに感謝しています。

私が市民病院を志望した理由は、家族や自分自身が患者としてお世話になったことがあったり、家族が職員として勤務していたりと、市民病院が自分にとって非常に身近な存在の病院だったからです。市民病院の理念である「思いやり・信頼・安心」には、今まで患者、患者家族として色々な場面で触れてきました。今度は自分が職員となり、患者さんにとって市民病院が身近な存在で、信頼・安心して任せいただける場所であるよう、患者さんへの思いやりの心を常に持って、日々取り組んでいきたいと思えます。

市民病院の素晴らしいスタッフの方々と一緒に勤務することができ、毎日多くの学びがあり、改めてこの病院で働けることになり良かったなと感じております。2年間の研修期間、どうぞご指導よろしくお願いいたします。

(初期臨床研修医 村上 由佳)



長期療養者就労支援の取り組みを視察

厚生労働省、徳島労働局、徳島公共職業安定所より担当者来院

当院は平成28年より、がん診療連携拠点病院として公共職業安定所（ハローワーク徳島）と、がん患者の就労支援事業に関する協定を締結しております。就労支援とは、治療を受けながらも「働きたい」「自分の病状、体力に合った仕事を見つけたい」といった要望に対し、ハローワーク徳島を中心とした社会全体でサポートする取り組みです。

昨年度、徳島県においてがん患者の就職率が全国2位という結果となりました。これに伴い、徳島県のがん診療連携拠点病院における取り組みを視察するため、厚生労働省 職業安定局 首席職業指導官室より3名、徳島労働局2名、ハローワーク徳島より2名が当院へいらっしゃいました。

まず、当院の就労支援の取り組み状況を説明し、その後現場視察にて、患者支援センター前の求人情報掲示板にはハローワークの求人票が入ったフォルダがあり、新しい求人票を入れてもすぐになくなるため、高い需要があることなどを担当者へ伝えました。最後に情報コーナーを案内し、視察が終了すると「ここまでの配慮や支援を実施している病院は数少ない。今後もこのような形で続けていただければありがたいです。」との言葉をいただきました。

（患者支援センター 森田 敏文）



就労支援取り組み状況について説明



患者支援センターや入院支援室、治療と仕事の両立支援に関する情報コーナー等を案内



第33回 若手奨励賞を受賞

このたび、徳島医学会 第33回 若手奨励賞に選出していただきました。関係者の皆様、ご指導賜りました外科 日野先生に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

遺伝性乳がんは乳がん全体の5～10%といわれ、遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）をはじめ、近年注目されています。MLH1はDNAミスマッチ修復遺伝子の1つで、その生殖細胞系列病的変異はリンチ症候群の原因となります。リンチ症候群では多彩な関連腫瘍が指摘されていますが、乳がんとの関連を示すデータは不十分です。当院では、対照的な既往歴のgMLH1病的変異陽性乳がんの2例を経験したので報告しました。



（左より）森 俊明医師、日野 直樹医師、杉本 花奈乃研修医、橋本 一郎医師

同一遺伝子に変異を持つリンチ症候群でしたが、既往は対照的でした。gMLH1病的変異を有する女性では70歳までの乳がん発生率は11%であり、一般集団と比較して乳がんリスクの明らかな増加は認められません。また、リンチ症候群患者の同じ遺伝子変異保有者の中でもDNAミスマッチ修復が正常な乳がんも存在し、発がん経路が異なる可能性も指摘されています。gMLH1病的変異陽性と乳がん発症との関係性については、今後更なるデータ蓄積が必要です。

来年度より、乳腺外科の専門医取得を目指して後期研修予定です。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。（臨床研修医 杉本 花奈乃）